

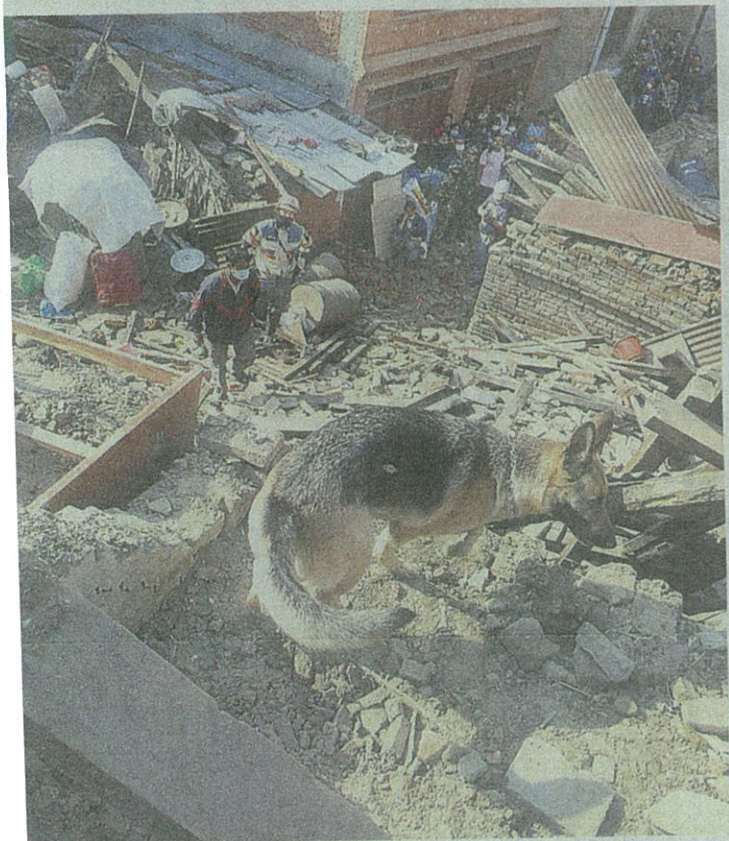
行方不明者の捜索訓練をする災害救助犬の「エイト」とハンドラーの安随尚之さん。「どのような状況でも力を発揮できる犬を育てたい」=兵庫県伊丹市



ハンドラーの安随尚之さんに連れられ散歩に向かう救助犬たちはうれしくてジャンプ。訓練以外では一般の犬と変わらない=兵庫県伊丹市



2011年3月、東日本大震災で被災した岩手県釜石市で行方不明者を捜索する災害救助犬。地震発生翌日の12日夜に被災地入りした(日本レスキュー協会提供)



2015年4月、ネパール大地震で倒壊した家屋で行方不明者を捜索する災害救助犬=ネパール・バクタプル(日本レスキュー協会提供)

「サーチ(捜せ)！」ハンドラー(指導手)の指示が被災地を想定した訓練場に響く。災害救助犬の「エイト」が、がれきの隙間をのぞき込み、嗅覚を頼りに行方不明者の捜索訓練に取り掛かった。

兵庫県伊丹市の認定NPO法人「日本レスキュー協会」。災害救助犬の活動が目玉だった1995年1月

助け いち早く

の阪神大震災をきっかけに、同年9月に設立された。以来2011年の東日本大震災、15年のネパール大地震、16年の熊本地震など国内外の30以上の被災地に出動してきた。

訓練 根気強く

力が続かなく、犬の特性を踏まえ、長くても30分程度の「短期集中型」の訓練を毎日根気強く積み重ねている。

同協会理事でハンドラーを務める安随尚之さん(38)は「災害発生時に消防や警察、自衛隊などと素早く連携できる態勢をつくることも課題。犬と心を一つにして、助けを待つ人をいち早く捜し出したい」と語った。

災害救助犬と心一つ



繁華街で運営を支えるための募金活動。多くの人たちが立ち止まっていた=大阪市



「日本レスキュー協会」ではセラピー犬の育成にも力を入れている。病院や福祉施設などを数多く訪問する同協会の南園彩子さん(左)は「触れ合うことで人も癒やせて犬も楽しめる環境づくりを心掛けている」と話す=神戸市